

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

LEADERS AS READER

リーダーたちの本棚 VOL.30



アステラス製薬 代表取締役社長

畑中好彦さん

はたなか よしひこ

ビジネスに「思い込み」は禁物

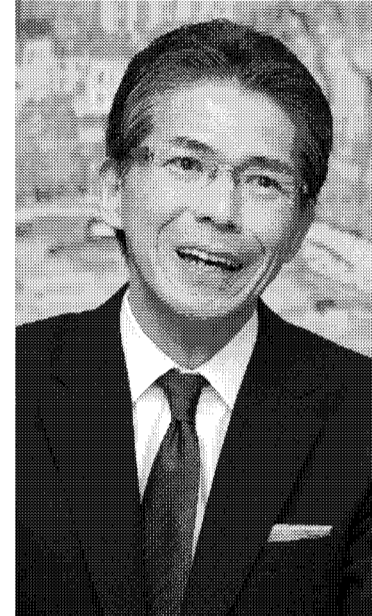
散歩が趣味で、コースの最後は決まって書店に立ち寄り、新刊本を中心に面白そうな本を探します。「錯覚の科学」もその一冊で、本書は、日常生活で陥りやすい六つの錯覚を、心理学的見地から解明しています。「注意の錯覚」の章では、「人がいかに予期しないものに気づきにくいかに、ハーバード大学の実験結果が示しています。文藝春秋の同書特設サイトへ

世界が相手だからこそ 知っておきたい自国のこと

く、実験動画がアップされているので、自分の注意力をテストしてみてもいいです。「真実」と「あるべきこと」を勝手に混同し、誤って記憶する。「記憶の錯覚」能力の過信からくる「自信の錯覚」が、容易に手に入る情報へ注意を向け、楽観的な前提を積み上げる。「知識の錯覚」など、どれも自分の能力や可能性を過大評価させるもので、ビジネスの場面で十分に起こり得ることで、「想定外」と言い訳しないための心得として、特に判断を下す立場の人の参考になると思います。

新薬の創出により成長戦略を推進

旧藤原製薬工業と旧日之内製薬が合併し、05年に発足したアステラス製薬。国内の高齢化、新興国の経済発展、世界的な医療費抑制策など、医薬品市場の動きを見ていく中で、私たちは、後発ジェネリック(医薬品)やOTC(一般用)医薬品ではなく、新薬の創出によって競争力を高めていきます。



畑中好彦さん

「優れた薬を迅速に患者さんに届ける」という企業広告のメッセージに象徴されるように、アステラスは「患者さんの健康を第一に考え、国や地域に貢献できる人材を育成する」ことを目指しています。

この6月にアステラス製薬代表取締役社長に就任した畑中好彦さん。米、欧、亜でも強い事業基盤を持つグローバル企業を率いる。「世界を相手にしているからこそ、日本の文化や歴史など、自分が拠って立つところについて考えを深めたい。本は多くの示唆を与えてくれます。学生時代は、夏目漱石の小説など、教科書に載った作品を名作全集から拾い読みするのが、試験明けの習慣。目についたタイトルを乱読するスタイルは変わらないという。今の時期に紹介する、この5冊を選び抜いていただいた。

海外駐在で目覚めた「日本」に対する興味

最後は、司馬遼太郎さんの「この国のかたち」です。私は、90年代初めに米国駐在を経験しました。さまざまな人種が働く職場で、考え方や価値観の違いを感じるたび、自分が日本人であることを意識させられました。世界はボーダーレスが進み、情報も瞬時に共有できます。ビジネスにおいてグローバルな視点は欠かせません。それでも、自国で育まれたものから逃れることはできないのだと、ちょうど出張で帰国した際に出会ったのがこの本で、「ビートルズの海外に文化のなかに育まれてくる」という文など、まさに当時の気分がシンクロする内容でした。

「日本中核の崩壊」は、経済産業省の現役官僚の著書で、東日本大震災後の政府や省庁の対応の甘さ、日本の官僚機構の問題点など、知られざる内幕を明かす痛烈に批判しています。興味深い主張である。一方で、政府なり省庁の上層部からの反論も聞きたいところ。今のところ目立った反論はなく、そのことがいちはばん気がかりで、日本復興の青写真が

■朝日新聞社広告局ウェブサイトでは、畑中好彦さんが語るリーダー論を紹介しています。http://adv.asahi.com

畑中好彦さんがすすめる5冊

「この国のかたち」全6巻 (文藝春秋) 司馬遼太郎 著

「日本中核の崩壊」(講談社) 古賀茂明 著

「それでも、日本人は「戦争」を選んだ」(朝日出版社) 加藤陽子 著

「侍従とパイプ」(中公文庫) 入江相政 著

「錯覚の科学」(文藝春秋) クリストファー・チャプリス&ダニエル・シモンズ 著

三笠書房 仕事ができる社員、できない社員 吉越浩一郎

断捨離 千田琢哉

大学時代 絶対やっておきたいこと

仕事ができる社員、できない社員 吉越浩一郎